

蚕糸試験場の使命

当場は創立以来 50 余年にわたり蚕糸の生産と利用に関する基礎的、応用的研究を行い、多くの業績をあげてきました。

今日、蚕糸絹業をいっそう発展させるための体質改善は蚕糸研究推進の成否にかかっているため、当場においては絹の生産と需要増進に関する研究の強力な発展をつうじて、国の研究機関としての使命を達成しようとしています。

沿革

当場は農林省の所管に属し、明治 44 年に原蚕種製造所として創立されました。

その後、事業の拡張によって大正 3 年に蚕業試験場となり、昭和 12 年に製糸および絹繊維に関する研究の充実をはかり、現在の名称に改められましたが、さらに昭和 33 年本場、支場所の研究組織を整備し、現在に至っております。

組織

蚕糸試験場

企画連絡室（4 科）

栽桑部（8 研究室）

桑育種第 2 研究室（小千谷市）

生理部（7 研究室）

育種部（5 研究室）

養蚕部（5 研究室）（前橋市）

病理部（6 研究室）

製糸部（7 研究室）

絹繊維部（6 研究室）

化学部（7 研究室）

付属 日野桑園（東京都日野市）

東北支場（1 課 5 研究室）（福島市）

中部支場（1 課 5 研究室）（松本市）

関西支場（1 課 5 研究室）（綾部市）

九州支場（1 課 5 研究室）（熊本県植木町）

新庄原蚕種試験所（1 課 3 研究室）（新庄市）

小淵沢原蚕種試験所（1 課 3 研究室）（山梨県小淵沢町）

宮崎原蚕種試験所（1 課 3 研究室）（宮崎市）

屋久島分室

岡谷製糸試験所（1 課 4 研究室）（岡谷市）

研究

当場における研究の課題は農政の方向、技術実施の場からの要望等を考慮して決められ

ることとなっていますが、現在は次のような研究課題について、各部、支場所において研究をすすめています。

1. 桑の育種に関する研究
2. 桑の栽培技術に関する研究
3. 桑園の土壌および肥料に関する研究
4. 桑の災害防除に関する研究
5. 桑の害虫防除に関する研究
6. 桑葉の葉質に関する研究
7. 蚕の育種に関する研究
8. 蚕種に関する研究
9. 育蚕の生理に関する研究
10. 養蚕技術に関する研究
11. 養蚕経営に関する研究
12. 蚕および絹糸類の病虫害防除に関する研究
13. 製糸技術に関する研究
14. 繭の検定格付に関する研究
15. 絹繊維の加工技術に関する研究
16. 絹糸質に関する研究

研究業績

1. 刊行物

試験研究調査の成果は、蚕糸試験場刊行物および学術雑誌に発表し、学界および関係業界の参考資料としていますが、当該刊行物の種類および出版概況は次のとおりです。

種類	発刊様式	創刊年月	既刊の巻号
蚕糸試験場報告	不定期	大正 4 年 7 月	21 巻 2 号
蚕糸試験場彙報	不定期	大正 6 年 12 月	88 号
蚕糸研究	年 4 回	昭和 27 年 4 月	63 号
蚕糸試験場資料	不定期	昭和 13 年 5 月	20 号
臨時刊行物	不定期	大正 5 年 9 月	4 号
欧文報告（現在は廃刊）	不定期	大正 5 年 5 月	2 巻 3 号

2. 特許および実用新案登録

蚕糸試験場の発明にかかわる特許は現在まで 223 件、実用新案登録は 109 件に達していますが、これらのものは国有となっており希望される向きには実施許諾をしています。

定員

昭和 42 年度定員 817

指定 1 行政 (1) 268 行政 (2) 117 研究 431